



「山間(やまあい)と農村に浮かぶ平成の宿場集落」をイメージ。積雪時の落雪対策として、屋根は中央エントランスに向けて三角に傾斜した形状としている。



南向きの光が入る明るいトイレ。繭をイメージした円形空間に、小便器を独立して配置。小便器の後方は、枯山水の石庭をイメージして小石を敷き詰めている。



伊達市産の杉を使った縦格子が美しいトイレ空間。ウォシュレットリモコンは、押すたびに発電し、電源工事や電池交換が不要なエコリモコンを採用している。



サインにも宿場を想起させる着物姿の男女のイラストを起用。男女で色分けすることで、遠くからでもわかりやすい。



足元の汚れを軽減するため、近づきやすい形状の小便器を採用。立ち位置を明確にするため、大人用は足袋、子ども用はモンスターの足形をデザイン。遊び心あふれるデザインは利用者からも喜ばれている。



洗面器は両側から使えるよう、中央に配置。非接触で衛生的な自動水栓をセット。1ヶ所はお子様に配慮して低めにしている。スタイリングコーナーは、お化粧しやすさに配慮して、明るい窓側に配置。



車いす使用者からお子様連れ、オストメイトなど、さまざまな使用者に対応可能な設備を完備。

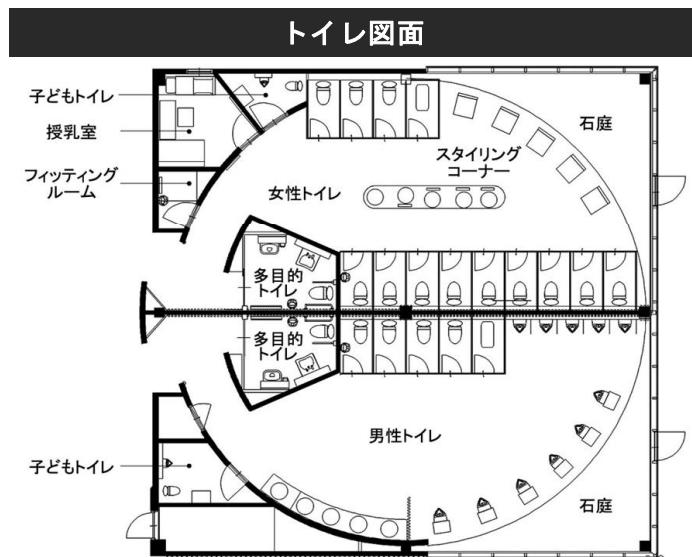


女性トイレ側には、調乳用シンクを設置した授乳室を完備。ソファに座って、ゆったりと赤ちゃんのケアができる。

建築概要	
名 称	道の駅 伊達の郷りょうぜん
所 在 地	福島県伊達市靈山町下小国字桜町3-1
施 主	伊達市
設 計	株式会社 中山建築研究所
施 工	<建築>佐藤建設株式会社 <電気・機械>齋藤電建工業株式会社
竣 工 年 月	2018年3月



幼児用大便器、幼児用小便器のほか、お子様の着替えやおむつ交換に便利なフィッティングボードを設置。



蚕で有名な伊達市の繭の形をイメージして、円形で構成。車いす使用者やお子様連れなど、さまざまな使用者への配慮が充実している。

<建物の特徴>	
「道の駅 伊達の郷りょうぜん」は、東日本大震災時に原発事故の一時特別避難勧奨地点となった場所にある。復興道路として計画された東北自動車道(伊達市)と、常磐自動車道(相馬市)を結ぶ、東北中央自動車道(相馬・福島復興道路)の中間に位置しており、東日本大震災からの復興シンボルとなるよう、サービスエリアの機能も兼ねた道の駅として整備された。『山間(やまあい)と農村に浮かぶ平成の宿場集落』というコンセプトにもとづき、建物・外構・家具什器、サイン看板店内演出にいたるまで、総合的に設計デザインしている。	
<トイレの特長>	
国土交通省の要請により、24時間使用できる。伊達市は、昔から蚕で有名であったことから、トイレは繭の中をイメージ。乳白色のガラス壁で囲まれ、内部空間も円形で構成されたトイレは、日中は南向きの光の入る明るいトイレとして、夜間は逆に内部の照明がガラス越しに道路と駐車場を照らし、行灯のようにやわらかい光を放ち、旅行者を迎える。子どもトイレや授乳室も完備しており、「誰もが入ってみたくなる、快適なおもてなしトイレ」となっている。	